

教育分野への質問

	意見	区の考え方
1	現実問題としていじめが横行している中で、子育ての時点で何か問題があったのではないかと考えている。いじめ撲滅に向けての対策を検討してほしい。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
2	いじめに関連し不登校や引きこもりの問題等もあると思うが、現状把握としてそういったデータの共有が必要ではないか。	いじめ、不登校、虐待、引きこもりの問題については、これまでも関係機関と情報共有を図っており、今後も連携・協力して対応していきます。
3	学力は数値化できるが、小学生・中学生の時期には個々の成長に応じた学習活動がなければ、いじめの問題や引きこもりにつながるのではないか。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
4	社会、教育、家庭の歪みなどが「いじめ」「暴力」「深刻な事故」につながっているのではないか。いじめた者を探すよりも、全員で精力的に取り組む課題である。児童生徒が多く、過酷な受験戦争を体験した世代とは異なり、今や少子化時代でケアする人手の方が多いのではないかと考える。シルバー世代、高齢者世代の掘り起こしによる全員参加で乗り切れるのでないか。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
5	教育分野の5の政策課題や6の施策の方向性の中に、いじめ、不登校、引きこもりに関する記述が見られないが、これらへの対応は課題ととらえていないのか。	ご意見のとおり、いじめや不登校は引き続き大きな課題であると認識しています。
6	情報化対策についてだが、来年度の小学校の教科書には、発展的学習として全ての教科書に二次元バーコードが付与される。目黒区の小学校にはWi-Fi機器やタブレットなどがほとんど導入されていないため、学校の授業では使用できず家庭学習でしか使えない。これは大変なことではないだろうか。渋谷区では全員にタブレットを配布するという事なので、教室の中で使用することができる。中学校は再来年から教科書に二次元バーコードが付与されるとのことだから、目黒区の目指す5年後10年後では遅すぎるのではないか。教育分野でもIT化や情報化は緊急の課題ではないだろうか。	教育分野の情報化の推進については、ご意見のとおり喫緊の課題であると認識しています。今後、施策を展開していくに当たっては、先行自治体の状況を参考にしながら、スピード感を持って取組を進めていきます。また、中間答申等を取りまとめいくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。

	意見	区の考え方
7	6の施策の方向性の中で、10年後の姿にも、現在検討中のICT活用に関する記述があるが、日進月歩の時代にあって10年かかってやる施策ではなく、5年でやるべきではないか。10年経ったら、今では考え付かない技術革新があるかもしれない、時間をかけて行う施策ではない。	教育分野の情報化の推進については、ご意見のとおり喫緊の課題であると認識しています。今後、施策を展開していくに当たっては、先行自治体の状況を参考にしながら、スピード感を持って取組を進めていきます。また、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。
8	AIが進歩して社会に浸透していくなかで、人間は人間らしい読解力や意味理解を深めることで差別化していく必要があるといわれている。AIは文章を深く理解することが苦手といわれるが、中高生も同様に理解できないという調査結果もあるようだ。AI時代に、読解力・創造力といった人間にしかできない能力を向上させていく教育が求められるのではないか。	今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。
9	英語教育に力を入れることは良いが、自分の足元を確認するという意味で、日本文化に関する教育も大切だと思うが、どのように考えているか。	ご指摘のとおり、国際社会で活躍する子どもたちの育成を図る上で、日本の伝統・文化について理解を深めることが重要です。各学校では、伝統芸能保持者を招いた体験型ワークショップや茶道・華道の体験事業など、子どもたちが伝統・文化に触れる活動をしています。
10	新たな政策課題の(2)の道徳教育について、始まったことなのでやむをえないが、授業を参観し、難しいと思った。上質なスキルを教える側がもてるようフォローしていくべきである。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
11	めぐろ学校教育プランの目指す子ども像についてだが、この「たくましく」という言葉に違和感を覚える。また、新たな政策課題の(1)に「児童・生徒の基礎的な力の確実な習得に」とあるが、それがままたらない子どももいる。子どもの権利条約には、休息・学び・余暇の権利があるが、やれたくましくなれ基礎的な力を身に着けろとなると、子どもがゆっくり休息する時間があるのか気になる。あまり煽るような表現は慎んでもらいたい。	「めぐろ学校教育プラン」は、長期計画の補助計画に位置付けた学校教育に関する中期計画として平成14年度から策定しており、平成19年度から「目指す子ども像」「目指す学校像」を掲げています。ご意見は、今後の参考とさせていただきます。
12	「たくましく生きる」について意見があったが 気持ちの弱い子が多いとの現場(小学校また小学生を指導する地域団体)の声がある。折れない心を育てるのは必要であり、大事なことと思うが、「たくましく生きる＝人間性豊か」と読み取られるのは誤解されると思う。多角的な思考ができることが大事なのではないか。	
13	政策課題の(6)に「チームとしての学校」とあるが、そのチームは風通しの良いものでないといけな。上意下達では本当のチームではないので、そのあたり配慮しながら「チームとしての学校」という言葉を使うべきだと考えている。	今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。

	意見	区の考え方
14	「地域と密着した学校」の視点が欠けないようお願いしたい。	今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。
15	事件などの問題が生じれば臨床心理士が学校に派遣されるが、日常的に子どもたちの心の成長に寄り添っていく臨床心理士の位置づけについてはどのように考えているか。	心理職による日常的な支援としては、各小・中学校、幼稚園、こども園にスクールカウンセラーを配置して、子ども、保護者、教員からの相談等を受けています。小・中学校では週に2～3日の配置ですが、そのうち1日は東京都の配置です。幼稚園・こども園では月18時間の配置です。また、めぐろ学校サポートセンターに配置された教育相談員は11名全員が心理職であり、週に2日ずつ小・中学校でスクールカウンセラーも兼務しています。その他、特別支援教室事業では、東京都から臨床発達心理士等が各小・中学校に年間40時間派遣されアセスメントや助言をしています。
16	新たな政策課題(6)の教員以外の専門スタッフについてだが、学校の現場では先生は部活動の指導など、雑務で忙しいと聞いているが、学校は子どもたちが勉強する場でなくてはならない。それを支援するための専門職等の派遣をぜひお願いしたい。息子はアメリカに住んでいるが、自分の子どもの通う学校でプログラミングの指導をボランティアで行っている。目黒区でも、そのような連携ができていくとよいのではないか。専門職も含め、いろいろな形で外部の人材やスタッフなどを取り入れていくとよいのではないか。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
17	「3 区の現状 図表2」及び「6 課題解決の方向性」について区内にある都立中高、私立中高について、全く記述がないが、よいのか。「チームとしての学校」という点や防災時の避難所としての機能のことを考えれば、教育内容の部分では触れずとも、部分的に計画で扱うべきではないか。管轄が違うとはいえ、区内に位置し、区民も多く通っている教育機関を区役所の意識外に置くことは、地域の分断につながるのではないか。	今回の基本構想検討シートは、区教育委員会が学校設置者として所管している区立学校の状況について記載しています。そのため、都立中高、私立中高については言及していません。学校自体の運営や教育活動は、設置主体が責任をもって行っているものと考えます。しかし、災害時の避難場所として、また、地域との関わりやコミュニティ形成といった面での役割は共通するところもあると思いますので、「関係機関との連携・協力」の視点から、記載内容を検討していきます。
18	特養ホームで起きた事件等を受けて、小学生からの教育が必要と感じ、区に要請をして小学4年生向けの冊子を作成していただいた。今年は教育委員会で中学生向けの冊子も作成いただいた。他区にはない良い取組だと思うので、今後も続けてほしい。学校だけではできないので、PTAと更に連携して取り組んでいく必要がある。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
19	3の区の現状についてだが、図表1では学力が高いと示されている。各学校でよい取組がたくさんあるので、他の地域へのアピールに使えるのではないか。また、産業振興や現場の教師の士気向上にもつながると思うので、アピールすべきだと思う。	今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。

	意見	区の考え方
20	<p>図表2で児童数の増加に比べて生徒数の増加が少ないことを見ると、中学受験率が急増している状況で、今後益々拡大されていくものと判断できる。</p> <p>小学校でも受験に関する指導を行う必要性もでてきているように思うのと、区立中学校へ行くことのメリットももう少し打ち出す必要があると思う。例えば小中一貫教育が受けられるなど教育連携をもっと実感できる形で行うなど、中学受験は選択肢の一つとして、子どもや各家庭が判断できるよう学校で指導ができるのではないかと。</p>	<p>今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>
21	<p>本会議の議題から少しそれるかもしれないが、6年生の受験シーズンの学校生活のあり方については教員と教育委員会がもっと連携して、児童、家庭に指導していく必要がある。学級崩壊を未然に防ぐためにも受験と義務教育、どのように保護者と子どもに違いと意味を理解させられるか。子どもも周りに流されて受験を望むが、少なくとも親が子どもに押し付けるような受験があるとしたら、それは義務教育の趣旨から逸れていると思うし、不登校やいじめ、虐待などにつながる恐れもある。あくまで中学受験は選択の一つであり、有利不利又は優劣のような捉え方がなされないように指導していくことが、この先さらに過熱するであろう未来に求められることではないかと思う。</p>	<p>今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>
22	<p>新たな政策課題の(9)では、小規模化の課題の解消とあるが、大規模校にも課題はあることを忘れないでほしい。</p>	<p>区立中学校の統合方針では、適正規模とあわせて学校規模の上限を示しています。ご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
23	<p>「部活動の推進」という記述を入れた方がよいのではないかと。</p>	<p>中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。</p>